

## 令和 7 年度瑞穂町図書館協議会視察研修 報告書

## 研修概要

- 日 時 令和 7 年 11 月 27 日（木） 13:30～16:10
- 場 所 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。
- 参加者 図書館協議会 5 人  
(関谷会長、高島副会長、笹井委員、吉良委員、関谷（初）委員)  
瑞穂町図書館 1 人（西村係長）
- 担当者 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。  
施設長 田中氏、共創推進係主幹 土田氏
- 概 要 運営形態：直営（カフェ以外）  
総事業費：60 億  
うち 1/2 は国土交通省補助（コンパクトシティ形成支援）  
蔵書数：開架 10 万点、閉架 5 万点（概数）
- 内 容
  - 100 年あった市民病院の跡地利用で R1～R6 にまたがる事業
  - 中心市街地の活性化のため、図書館を核とした複合施設
  - 開館して 1 年 2 か月、来館者は延べ 40 万人超え、市民の日常の場になっている
  - 2025 年グッドデザインベスト 100  
⇒サウンディング、リビングラボ（ワークショップ）等が評価
  - 様々な建築（フロート、アンカー、ルーフ）の組み合わせにより、  
多様な過ごし方を実現
  - NDC＋一部テーマ配架
  - 実空間とデジタル空間の融合  
⇒顔認証登録(カードと併用)、対面貸出なし、コトノハ

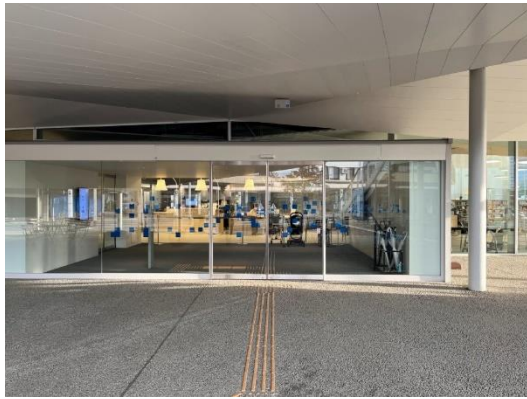
- 機能融合
  - 町の情報拠点としての機能
  - 主体的な関わり・取組＝楽しい・満足感
    - ⇒この経験がある人を増やす場としての機能
- オープンな公共空間を維持するために日々試行錯誤している
- 瑞穂町との共通点
  - 禁止事項の禁止
  - 会話 OK
  - 飲食可（エリア分けあり）
- 質 疑
  - 成長過渡期の利用者への対応で苦慮していることはあるか
    - ⇒年代に関わらず人が多く出入りするといろいろある
  - 高齢者増加への対応、
    - ⇒山間部の独居高齢者は孤立しやすいので、デジタルを活用したい
  - 不登校児等に対する図書館の役割
    - ⇒市の施策（学びの多様化学校）との連携、学校に行けなくても来館できる子もいる



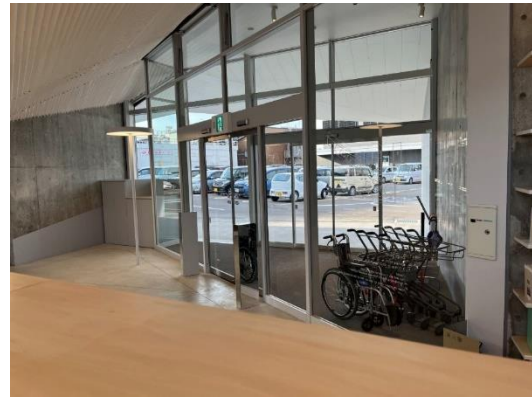
事業説明



施設見学



正面エントランス



別の入口 (BDS)



ホントカ。宣言



書架を含む什器は可動式



自由に使える什器の予備がある



飲食ルールの掲出

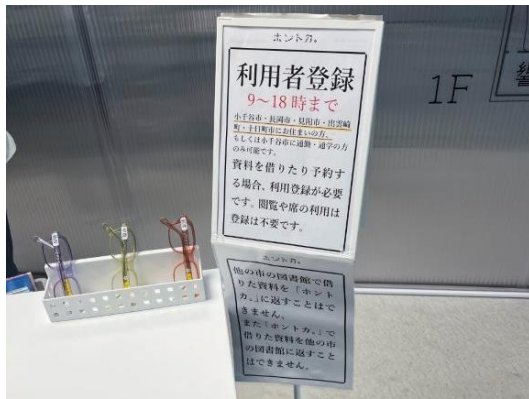


郷土資料エリアには民具も展示

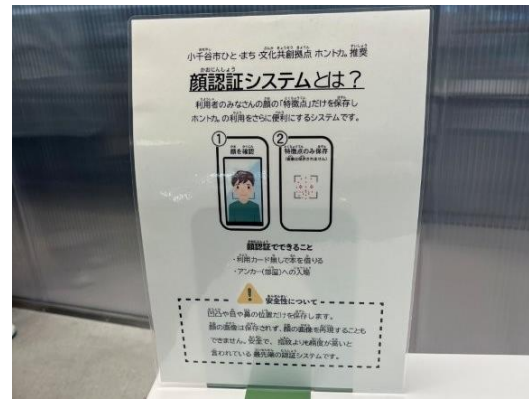


知アンカー（郷土の偉人を顕彰）





利用者登録の案内



顔認証システム



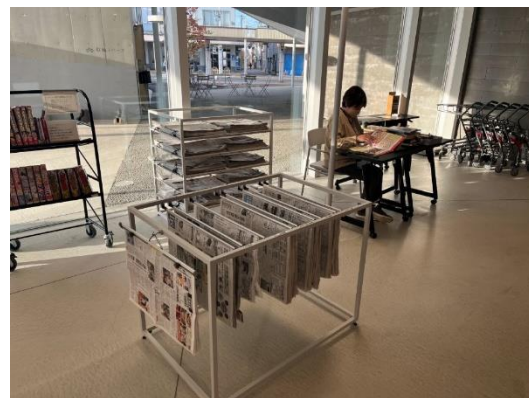
OPAC（蔵書検索端末）



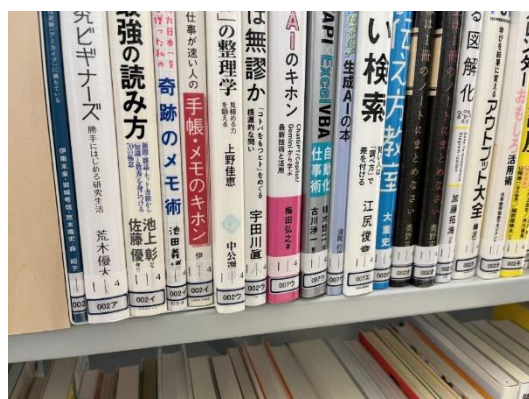
自動貸出・返却機



館内の様子



開架エリアで本の修理



テーマ配架のラベル

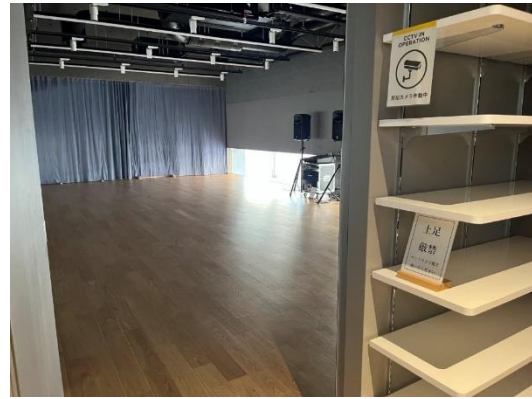


集合写真





屋内広場（小学生以下が遊べる）



響アンカー（スタジオ）



創アンカー（若者の居場所）



発アンカー（デジタルラボ）



閉架書庫（手動集密書架）



屋上（冬は閉鎖）